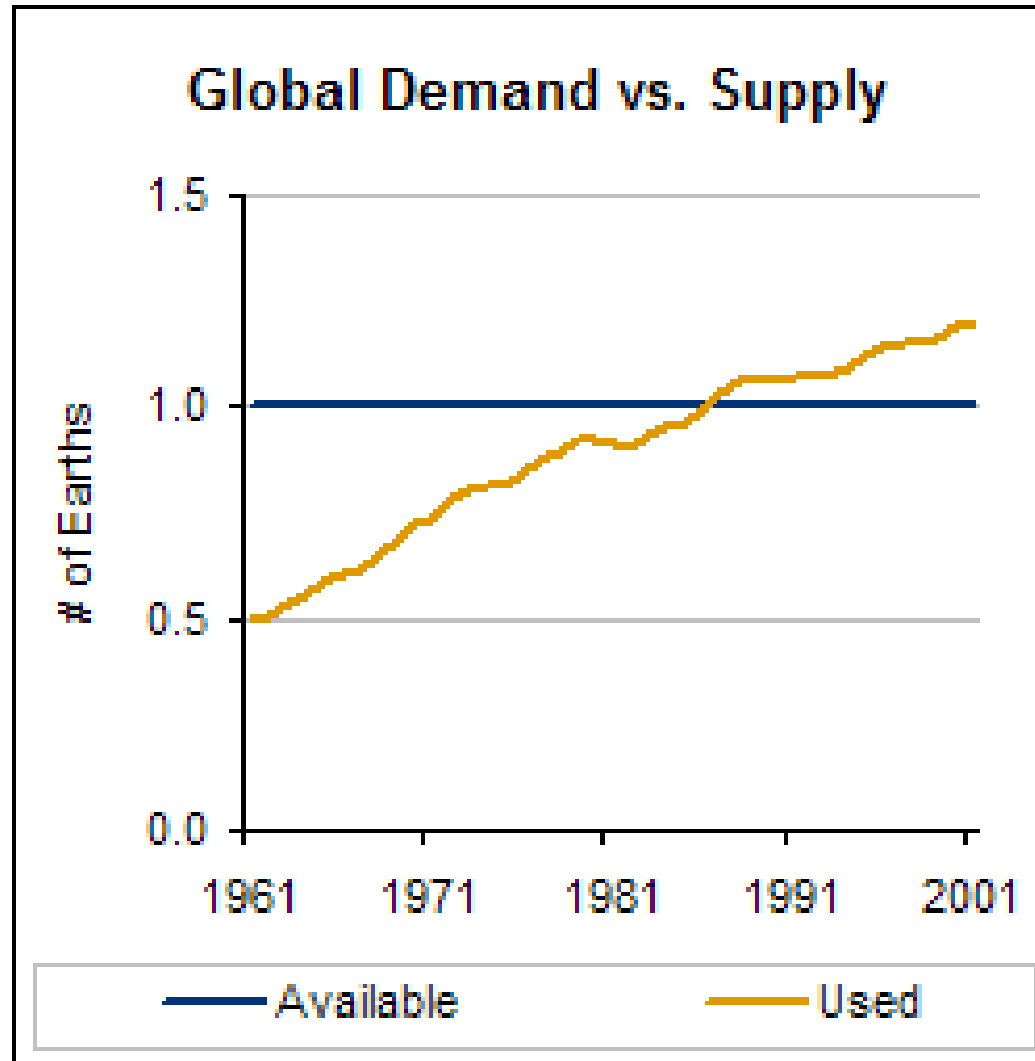


「これからの生き方、働き方を考える」

澁澤 寿一

# エコロジカル・フットプリント

—地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか)—



1961年で、  
0.5

1987年で、  
1.0

2001年で、  
1.2

2018年で、  
1.7

日本は、  
2.9

# 都道府県別食料自給率(カロリー、2018)

北海道	185	東京	1	滋賀	51	香川	35
青森	120	神奈川	2	京都	12	愛媛	37
岩手	103	山梨	20	大阪	1	高知	46
宮城	72	長野	53	兵庫	16	福岡	19
秋田	192	静岡	17	奈良	15	佐賀	87
山形	139	新潟	112	和歌山	29	長崎	45
福島	75	富山	79	鳥取	62	熊本	58
茨城	70	石川	49	島根	66	大分	47
栃木	70	福井	68	岡山	36	宮崎	66
群馬	32	岐阜	24	広島	23	鹿児島	87
埼玉	10	愛知	12	山口	32	沖縄	36
千葉	27	三重	42	徳島	43	全国	38

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「**経済・社会・環境**」の調和により、我々の世界を**変革**する！

我々は、貧困と不平等を終わらせる**最初の世代**になりえる。

同様に、地球を救う機会を持つ**最後の世代**にもなりえる。

(2030年まで人類滅亡への引き返せない最終点を越える)



エクアドル・ベトナム・ミャンマー

43-48歳















# 環境NGOで学んだこと

60年前、天井は1200円、掛け蕎麦は40円

今は、天井は500円、掛け蕎麦は400円



コールド・チェーンの発達

発展途上国は、豊かに

(子供は学校に、病人は病院へ、安全な井戸水)

日本では、1コインの安い天井

(これを、WIN-WINと言って良いのか?)



1. 貧困の根絶
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
6. 安全な水と衛生的な環境を、すべての人に
8. 働き甲斐も経済成長も
10. 人や国の不平等をなくそう



13. **森の破壊**による、温暖化の促進、

台風、高潮など自然災害の被害の拡大

14. **海洋生物**の多様性の減少、生物量の減少、薬品による汚染

15. 汽水域、陸域**生態系**の破壊・・・貨幣経済による**コミュニティ**の崩壊

**地球環境の破壊(子供たちの未来の破壊)**



## どこで、何を、だれが間違えたのか？

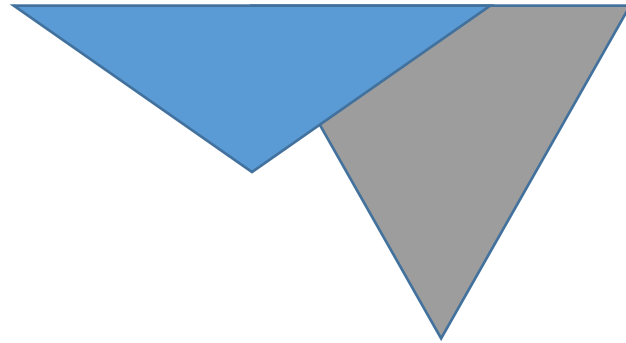
- **日本人**がエビを食べなかったら、  
エクアドルの子供は学校に行けない。  
エクアドルの病人は病院に行けない。
- **エクアドル人**がマングローブを切らなかったら、  
日本の天井の値段は、今の10倍に。  
そして、エクアドルの子供も、病人も・・・
- **エビ業者**が世界からエビを買わなかったら、  
日本人も、エクアドル人も、商社も、世界経済も・・・

これまでの60年

持続可能な未来

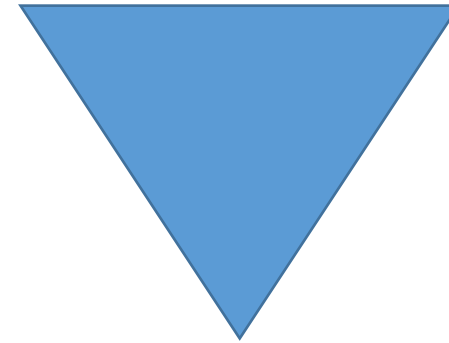
経済

社会



経済

社会



環境

環境

「お客様の望むものを・・・」だけでは済まされない経済

## リオ+20 ムヒカ大統領の演説

環境問題の根源は、先進国の**消費の形**、

**豊かさの尺度**、欲望に歯止めがかからない。(自足のかたち)

「**貧しい人とは、少ししか持っていない人のことではなく、**

**もっともっとと、際限なく欲しがる人、いくらあっても満足**

**しない人のことだ」**



豊かになった「日本人」は、

幸せになったのか !?

## 無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 「私らしさ」の喪失

「無関心」「無視」「面倒くさい」

これは愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、「憎しみ」ではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

「愛」のきっかけは「興味を持つ」こと！

持続可能な社会をつくるには、

人と人、人と自然、世代と世代が、つながること

→ つながるには、お互いが関心と共感を持ち合う社会

(関係性づくり → 幸せな社会)



## 共感の範囲 (動物学者 山際寿一、京大総長)

類人猿の中で「共感」を持つのは、人とゴリラ・・・食卓を囲み、分け合って食べる

ゴリラの共感の範囲・・・15頭(サッカー11名、ラグビー15名、肉体の共鳴集団)

会社経営の共感の範囲・・・150人(言語を持つ人間、社員もその家族も一家)

地域の共感の範囲・・・1000-3000人(小学校区一中学校区、言語を持つ人間が、システムを持つと、共感できる)

共感の薄れる現代社会・・・食卓を囲まない家族、SNSの噂話でつながるPTA、

祭りの消滅、地域コミュニティーの崩壊→サル化する人類

地域は共感の範囲

# 共感の本質

人間にとっての「**幸せ**」とは

89歳の認知症の母が、見つけた「**幸せ**」

共に食べる、役割り、シェアする、**共感する**。

(ケア・プログラムでは見つけられなかった**幸せ**)

共感の本質は、**双方向・多方向**の関係性



つまらない+つまらない+つまらない・・・では、「幸せ」ではない。

めんどろ+めんどろ+めんどろ・・・では、「幸せ」になれない。

めんどろ+**楽しい**+めんどろ+**楽しい**・・・でも、「幸せ」の実感がない。

**楽しい**+**楽しい**+**楽しい**+**楽しい**・・・でも、「幸せ」に行きつかない。

稼ぎ (職業 = お金 = Do) が人生をつくる、

or

なりわい (生き方 = 人生 = Be) に合わせた  
働き方や職業を持つ

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

## 「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ 高度経済成長期の論理

(現在～これからの20年)  
「 **生きる意味を問う労働** 」  
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされ**、

**自然**の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持つ暮らし。

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する。 そのためには、

お金より**共感**や**協働**。 共感できなくても、**共生**(自治)。

**Do** より **Be** が大切。 働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える・・・

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」



# 戸田友介という生き方



1981年12月9日生まれ、

奥さんと子供4人の6人暮らし

名古屋大卒、豊田市築羽自治区在住

**年収 350万円、**

**支出 280万円**

(家賃36万円、水光熱費15万円、年金保険22万円、

燃料費24万円、通信費24万円、貯金70万円・・・)

**役職** : 地域会議副会長、観光協会理事、とよた都市農山村交流ネットワーク監事、消防団ラッパ隊、自治区広報部長、コミュニティ会議委員、夏祭り実行副委員長、梅祭り実行副委員長、木の駅プロジェクト事務局、薪作り研究会事務局、プレーパークリーダー、アグロプエルタ事務局、耕ライフアドバイザー、古民家運営委員、交流館運営委員、ご縁市実行委員、旭若者会、やさしい美術委員会、豊田市都市農山村交流会議委員、おいでんさんそんセンター運営委員、地域スモールビジネス研究会、山村担い手作り委員、豊田市中心市街地再開発有識者委員、NPO副理事長、暮らしカフェ実行委員長、地区混声合唱団団長、おいでんさんそんず、米っ子クラブ、餅っ子クラブ、豆っ子クラブ、山っ子クラブ、洋ラン園管理者、果樹園管理者、新聞配達、薪配達

(35の役職、紫は稼ぎあり14)

**米、味噌、醤油、豆腐、野菜は自給**

大きくしたり、多くしたりすると、儲かりそうな「稼ぎ話」がある時は、出来る限り、自分の取り分と、かける時間を少なくするようにしながら、分け合うか、手放す。

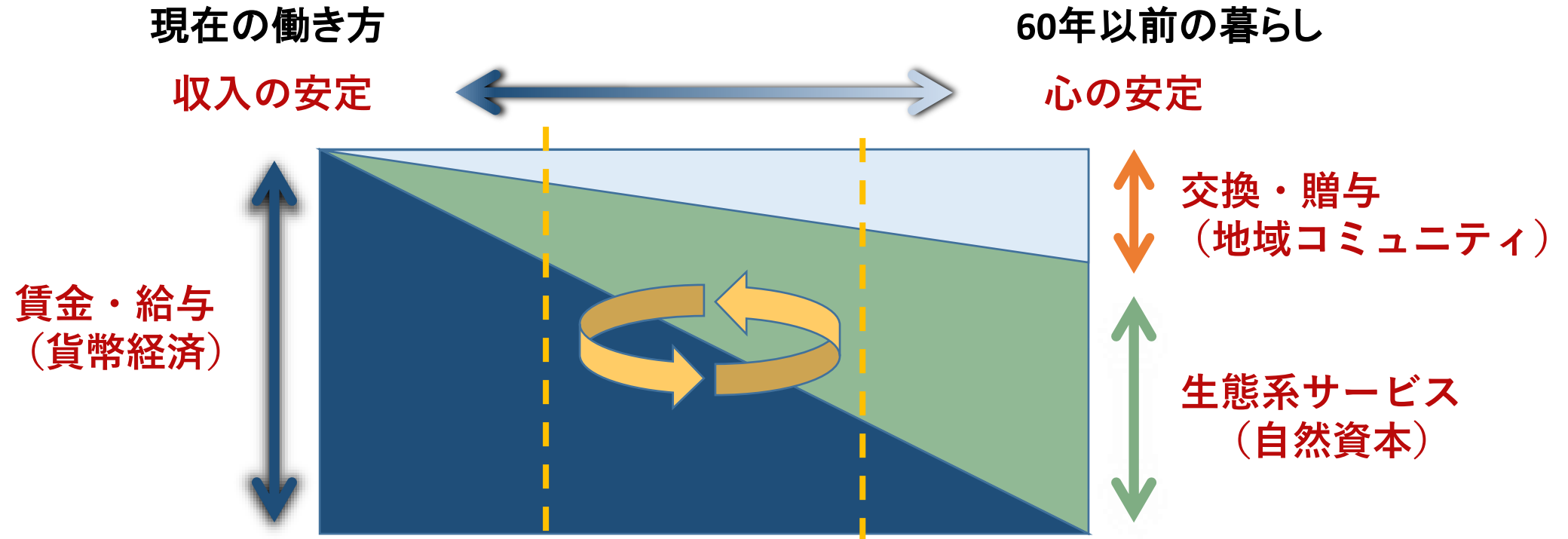
若干の余裕をおき、頼まれごとが出来るような状態にしておく。

儲ける事を目指すことをやめた、一つだけやることをやめた、  
仕事にヒトを合わせる事をやめた。

地域のいろいろな役割を担いつつ、地域と自らの未来を重ねながら、  
次世代につづく、働き方、生き方の模索・実験を行っている。

(戸田友介)

# 働き方の変化



- ・ 賃金労働
- ・ かつての都市
- ・ すべて買う生活

多様な労働形態 (個人)  
労働の流動性 (企業)  
↓  
現代の「百姓」  
半農・半稼ぎ・地域づくり  
マルチワーカー

- ・ 自給自足
- ・ かつての農村
- ・ すべて作り、賄う暮らし

# 対極ではない都市と地域

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

地域の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒ 環境・経済モデル + 生き方・働き方モデル

(外部経済+地域内循環経済、環境保全) (価値観づくり・人づくり)

経済的豊かさだけを求めない、「未来の社会」「幸福」「生きがい」を皆で考え、実践する。

地方創生は、経済創生ではなく社会創生





すべての生命は、多様でありながら一つにつながっている。